

令和4年度開講科目

科目名					
地域課題解決（多文化共生）					
適用プログラム					
多文化共生対応人材育成プログラム					
担当者					
弦間正仁／長坂香織／杉山歩					
開講期	後期（11/30～1/25）	履修年次	1～2年	必修選択別	選択
単位数	1単位	時間数	15時間	授業形式	学内対面またはオンライン
カテゴリ	技能科目	定員	30人	受講料	14,300円
【科目の目的】 山梨県には17,000人を超える外国人の方が住んでおり、母国と異なる文化やルールの中で様々な不安や悩みを抱えながら、山梨県民として生活している。こうした中、多文化共生の各分野で活躍されているゲスト講師から実際の現場での取り組み内容等を学ぶ。 本講義を通して、全ての外国人を孤立させることなく、社会を構成する一員として受け入れていくという視点に立ち、多文化共生社会の実現に向けた課題やその解決策等を考察し理解することを目的とする。 （学士基盤力）社会・文化理解、想像力、実践力・問題解決力、自己学修力、地域・国際コミットメント力					
【到達目標】 （知識・理解） 多文化共生社会の実現に向け、地域社会の抱える様々な課題を理解できる。 （思考・判断・表現／思考・技能・実践） 地域課題の解決に向け考察することができる。 （態度・志向性） 多文化共生の社会づくりに主体的に参画する姿勢を身につけ、自らの行動に反映させることができる。					

【授業内容】

本講義では、多文化共生に関する各分野で様々な取り組みを行っているゲスト講師をお招きし、実際の現場での活動内容等についてお話を伺いながら、異なる文化を持つ外国人と共生する上での様々な課題の解決に向けた考察を行う。

第1回（11/30 水）：オリエンテーション、多文化共生社会づくりに向けた山梨県の取り組み

弦間正仁（公益財団法人山梨県国際交流協会事務局長）

千田知宏（山梨県知事政策局国際戦略グループ主査）

第2回（12/ 7 水）：日本で活動する外国人の方の在留資格

村井昌一（東京出入国在留管理局甲府出張所所長）

第3回（12/14 水）：日本人の海外移住の歴史および移住者と日系人の現在

村上啓子（独立行政法人国際協力機構横浜センター総務課調査役）

第4回（12/21 水）：多文化共生社会の最前線～地域日本語教室の現場から～

古屋玲子（山梨県地域日本語教育コーディネーター）

第5回（12/28 水）：児童福祉領域での外国にルーツをもつ子どもと親への課題と支援

小林真理子（山梨英和大学教授）

第6回（ 1/11 水）：医療・介護の現場

石井貴志（社会福祉法人緑樹会理事長）

飯久保貴（山梨メディカルケア協同組合理事長）

第7回（ 1/18 水）：外国人児童生徒支援

早川優子（山梨県教育庁義務教育課副主幹・指導主事）

第8回（ 1/25 水）：中央市における多文化共生～現状と課題～

比志保（中央市国際交流協会会長）

* 授業はオンラインで同時配信する。

（授業外の学修）

各講義について理解を深めるために、事前に指定した資料に目を通してくる。

授業後、毎回、振り返りを提出する。

最終課題レポートに向け、自ら情報収集する。

【教育方法】

パワーポイント等を用いて講義形式で行う。

（実務経験のある教員による教育方法）

多文化共生について、行政、医療、福祉、教育、地域社会など各分野で実際の業務に従事するゲスト講師を招へいし、多文化共生の社会づくりに向けた多面的な講義を行う。また、担当教員は(公財)山梨県国際交流協会局長および様々な多文化共生の地域活動に長く関わる教員である。

【評価方法】

(知識・理解)

- ・ 振り返り 20%
- ・ 課題レポート 30%

(思考・技能・実践)

- ・ 振り返り 10%
- ・ 課題レポート 20%

(態度・志向性)

- ・ 授業中の質疑応答、振り返り、課題レポートから総合的に判断する。20%

【必携図書】

なし

【参考図書】

- ・ 『多文化共生事例集（令和3年度版）』

https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/chiho/tabunkakyousei_suishin_r03.html

- ・ 参考図書、参考資料は随時指示する。

【履修上の注意】

- ・ 本科目は、16：30～18：00の時間帯に山梨県立大学飯田キャンパスで実施する。
- ・ 講義順及びゲスト講師名は現在の予定であり今後変更する可能性がある。

【履修者へのメッセージ】

多文化共生の各分野の最前線で活躍するゲスト講師から、現場の生の声を聴くことができる絶好の機会です。質問や意見、感想など積極的な講義参加を期待します。